

平成29年度 内灘町地球温暖化対策地域協議会  
議事録

日 時 平成30年2月26日(月)  
午後2時00分から午後3時30分

場 所 内灘町役場 4階 408会議室

出席者 ・ 委員 新委員、源代委員、坂下委員、西田委員、  
荒木委員、中 委員、明地委員、上出 功委員、上出 勝浩委員  
計10名 欠席 一枚田委員、北川委員

・ 事務局 上島 町民福祉部担当部長、本 環境安全課長、  
川本課長補佐、甲野主事、北川囑託員

委嘱状の交付

町長挨拶

会長・副会長の選任

○会長 新 広昭 氏

○副会長 荒木 真由美 氏

報告事項

- ① 内灘町地球温暖化対策実行計画(事務事業編)進捗状況報告について(平成28年度分)
- ② 内灘町地球温暖化対策実行計画(区域施策編)進捗状況報告について(平成26年度分)
- ③ その他
- ④ ドイツ フライブルク研修報告

委員から出された主な意見の概要

事務事業編について

委 員：太陽光発電は向栗崎小学校以外の町内の小中学校には設置されているのか。

委 員：各小中学校には約5キロワットの太陽光パネルが設置されている。向栗崎小学校には従来の5キロワットに加え、平成27年度に15キロワットの太陽光パネルと15キ

ロワットの蓄電池が設置された。国の補助事業であるグリーンニューディール基金で設置されたもので、運用上、防災用の為、ためられた電気のうち、1日に50%までを放出してよいと決められている。平成28年度は、その分の削減効果が得られたと考えられる。災害時には、体育館の照明と電源と職員室の電源が使用できるように設計されている。

**委員：** その他の小中学校での今後の太陽光発電の設置は順次進んでいくのか。

**委員：** 4月開校の白帆台小学校含め、現在、設置予定はない。国の有利な補助事業があれば随時検討していきたい。

**会長：** 電気の排出係数はどのようにしているのか。エネルギー使用量での比較はしているのか。

**事務局：** その年の排出係数で算出している。3-2の表にエネルギーの使用量の推移を掲載している。

**委員：** 各学校で努力している活動があるか。

**委員：** 職員会で内灘町エコスクール推進計画を作りエコスクール事業に取り組んでいる。各学校でユネスコスクールの認定、県のエクスクールの認定も受けている。具体的な活動は、グリーンカーテン、各種エコ事業（水エコ・紙エコ等）。

**会長：** 内灘町にある全学校は石川県の学校版環境ISOの認定校になっている。県全体の状況はどうか。

**委員：** 今年度は石川県内にある300数校あるすべての小中高校、全校認定を受けている。学校での取組みが各家庭に良い影響を与えているのではないかと感じる。

**会長：** 前会長の鈴木先生がESD（Education for Sustainable Development）持続可能な開発のための教育に積極的に取り組んでいた。内灘町では何校がユネスコスクールのモデル校になっているのか。

**委員：** 6校すべて。

**会長：** 内灘町は県・国全体の中でもESDに熱心である。ユネスコスクールは、温暖化防止はもちろん、それに限らず国連で掲げているSDGs、持続可能な開発目標（貧困をなくす・

地球温暖化・海をきれいにする等17の目標がある)に向けて全世界で取り組んでいこうということになっている。新しい学習指導要領では、ESDを各教科、総合の授業も含めて全面的に取り組んでいくことになっている。それを先取りする形で内灘町では取り組んでいる。

#### 区域施策編について

**委員**：基準年を国の目標と同じにした方がわかりやすいのではないか。

**委員**：国は2013年度を基準年とし、2030年にマイナス26%の削減を掲げている。石川県で策定された計画は切れている。新たな計画を作らなければいけない。

**事務局**：内灘町の今後の見直しスケジュールは未定。国及び石川県とも歩調を合わせ検討したい。

**会長**：平成2年の数値目標だと達成するのは不可能に近い、かなり厳しい目標となっている。取組む方々・町内の事業者の方にとっては、ある程度背伸びすれば達成できる目標を設定した方がよいかと思う。目標値を緩くした方がいいというわけではないが、国・県に歩調を合わせる形で、少し背伸びをすれば達成できるような形に次回の見直しの際は検討して頂ければと思う。

**委員**：北陸電力では内灘町全体の電力量の実績値は分からないのか。

**委員**：電力自由化以降、他社と契約されている場合もあるので、内灘町内で北陸電力と契約している全顧客の電力量は把握しているが、全体の電力量を出すことはできない。

**委員**：家庭版ISOの取組みは、一般の方々にとっては非常に難しい取組みとなっている。もっと簡素化して見える化した方が、住民にわかりやすいと思う。

**会長**：国・県では、総務省による家計調査によって把握している。家計調査は県庁所在地、石川県だと金沢市の100のモニター家庭がそれぞれ1年間でどれくらいお金を使ったのかを調査する。その中に電気・ガス・灯油の使用量もある。その数字に石川県の世帯数をかけて全体を算出している。内灘町は家計調査の対象とはなっていない。地球温暖化防止活動推進委員の方等、モニター家庭で1年間の使用量を出して内灘町の使用量を把握するという方法もある。

委員：家庭版 ISO は期間が短く、比較しづらいと思う。また、町民に浸透していない。

委員：夏だけでなく、冬も実施している。以前は 3 ヶ月の期間を設け実施していたが、長すぎるといった意見が多かった。学校を通して家庭で取り組んでいるので、夏休みの宿題として取り組みを実施している。

会長：これからは楽しみながら省エネを実施し、町づくり・町の経済活性化に繋げていくことが必要。県の事業の実績を内灘町の報告書の中でトピックとして盛り込んでもよいかと思う。

委員：おい C まち内灘では生ごみゼロ作戦活動を行っており、生ごみの排出量は確実に年々減少している。サービス業である以上、事業所の削減には限界にきている。これ以上、事業所において削減すると、住民サービスに支障が出てくる。さらに削減していくには住民一人ひとりが取り組んでいくほうが、全体的な温暖化防止に繋がると思う。町での活動をもっと広げる術を探したい。

事務局：行政としても啓発していきたい。

会長：生ごみはほとんどが水分なので、蒸発させるためだけにエネルギーを使っている。生ごみを堆肥化するか、生ごみを出す時に水分を絞る等、一人ひとりの心がけが必要。

#### その他

委員：電気の「見える化」に取り組むことで、節電・省エネに繋げていきたい。

#### フライブルク研修報告

委員：フライブルクはドイツの南西端、フランススイス国境に近い場所にあり、環境にとっても熱心な町。行政が新しい町を作る時には、町の中心部に行く際、車を使わなくても行けるシステムを作る。鉄道をひく、自転車でも通えるように、自転車に乗っている人が困らないような道を作る。昔は道路に車が走っていた所を、一切車を走らせないようにする。自転車と歩行者のためだけの町にしようと、行政が取り組みをしている。新しいマンション等を建てる時にメタンガスを燃やしてできる熱を暖房に使用する。市役所は窓に全て太陽

光パネル、屋根にも太陽光パネルを設置している。環境に積極的に取り組み太陽光パネルをつけている家庭もある。ごみは有料化で、ごみの量で支払金額が異なる。ごみが少ない家庭では底上げしたごみ箱が置かれ、ごみ箱1つにつき支払金額が決まる。

ごみは主に4種類。①生ごみ、②リサイクル、③紙、④燃やすごみ。生ごみは再生化。リサイクルできるものはすべて黄色い袋。燃やした後に残るごみは、道路のアスファルトに混ぜて使用し、埋立てごみはない。

その他、行政が力を入れているのは教育。エコステーションはごみ・自然・環境ためのいろんなプログラムを提供している。行政が、住民が取り組みやすいような環境を常に提供している。

**委員**：内灘町は、以前からごみは有料化され、リサイクルにも積極的にドイツにも勝る取り組みを行なっていると感じる。行政に以前からお願いしているのは、生ごみを循環するためのシステムを作ること。各家庭で生ごみを堆肥化し、公民館で月1回集め、持ってきた方にはごみ袋の1袋でも渡す。そして集めた堆肥は大型の農場へ渡して循環させる、というようなシステムを作りたい。それによって、はっきりと生ごみと燃えるごみを分別するシステムができれば良いと思う。